

本会記事

■平成 29 年度「女子中高生夏の学校 2017 ～科学・技術・人との出会い～（夏学）」 参加報告

「2017女子中高生夏の学校」が2017年8月5日 - 7日に独立行政法人・国立女性教育会館（埼玉県嵐山町）で開催されました。その2日目、ポスター展示・キャリア相談ブースにおいて、「次世代のエネルギー源核融合とプラズマ」というテーマでポスター展示を行いました。プラズマ・核融合学会は2015年から参加していますが、今年は、核融合研の4名（村上、芦川、樋田、鈴木康浩）がポスター展示を担当しました。QSTからは資料と動画の提供が、核融合研と総研大核融合専攻からは資料と組み立て式簡易分光器の組み立てキットの提供がありました。資料等は、学会から提供したクリアファイルや冊子とともに、多くの女子学生に配布されました。

プラズマ・核融合学会のブースには、約 40 名（保護者等を含む）が来られました。エネルギー、核融合、プラズマなどについて説明を行いました。興味を持って聞いてくれた女子中高生が多く、中には、14 歳の中学生もいて、その意識の高さに驚きました。

「プラズマ」は言葉としては聞いたことがあるけれど、よく知らない、「核融合」は初めて聞いた、という生徒がほとんどでしたが、丁寧に説明をすると、良く

理解してくれました。女子中高生たちは、質問をするカードがもらえて、集めることになっているので、皆、がんばって質問をしてくれました。組み立て式簡易分光器を用いたスペクトルの観測も、女子中高生は興味を持ってくれました。家庭にもある LED、蛍光灯、白色灯や、ネオン灯を使ったスペクトル比較から波長や分光などの説明も理解してくれ、その基礎知識の高さに驚きました。このような優秀な女子中高生に「プラズマ」と「核融合」を知ってもらうために、本展示は、とても貴重な機会だと感じました。

ポスター展示の終了後、村上泉・プラズマ・核融合学会男女共同参画委員会委員は、学生企画の「GATEWAY」に参加し、「物理が好きで、物理に進学したい」といった女子中高生たちの相談に応じました。女子中高生はとても熱心で、「物理を勉強したら、将来どういう方向にいけるのか。」「物理は、どのように世の中に役に立っているのか。」など、多くの質問を受けました。

（プラズマ・核融合学会男女共同参画委員会委員
樋田美栄子）

